

# 介護の人手不足深刻化

淑徳大学の結城康博教授は22日、新型コロナウイルス感染症で介護現場がどのような影響を受けているかを調べた実態調査結果を発表しました。多くの事業所で人手不足が深刻化していることが分かりました。調査結果は、2月3～16日にインターネットを通じて集めたヘルパーやケアマネジャーら649人の回答をまとめたもの。

昨年4～5月の1度目の緊急事態宣言時と現在を比べ、人手不足の状況を尋ね

## コロナ実態調査 3割採用・補充できず

た問いでは、「改善している」の4%に対し、「悪化している」が20・8%。なかでも訪問介護では「悪化」が32・1%に上りました。

この1年間に新たに介護従事者を採用（補充）できているか尋ねた問いでも、「ほとんどできていない」「全くできていない」が合わせて28・8%になりました。ケアマネジャーと訪問介護では3割を超えませんでした。

記述意見では「高齢のへ

ルパーは感染を怖がっている」「応募は少なくなった。とりわけ経験者の応募」「採用より退職の方が多し」「などの声が並んでいます。

1回目の緊急事態宣言時と比べた事業収入を尋ねた問いも、「減っている」との回答が合わせて34%に上りました。

自分がかかわっている要介護者（要支援者）のなかに、新型コロナウイルスに感染し、病院に入れないため自宅または施設で療養している人がいるかを尋ねた問いには、40人（6・2%）が「はい」と回答していました。